

名古屋
牧師黃美

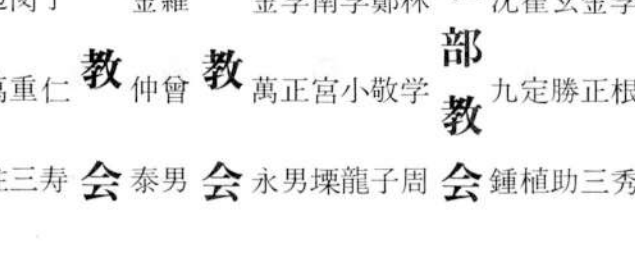
金金金子 陈金竹超陈郑

教 光再炳海 教 又光憲元載荣

会 在龍洪春 会 春洙變国焄禧

新年

大
京



昌道樂承教得教
煥所實俊會三會

昌道樂承教得教永秉吉永教煉成成宗炳教
煥所實俊會三會吉魯雄其會注允基銀會球會

教 晶 教
会 子 会

姜大奉按手執事

新年

豐中佐道所
牧師朴昌煥

韓日NCC教科書問題協議会での講演

教会の課題としての韓日関係 ①

朱 在 鏞 教授



今日の都市の「アバウト文化」の中に住む人々は「近くて遠い」関係で生きているという。このような関係が、歴史的にそして現在の韓日関係だとすれば、それは非常に不幸なことであるといわざるを得ない。H・クレマは、教会の徹底的な改革を強調して、私たちは神の召命に對して私たちの応答をもう一度考へ、形成するよう聖霊と世界から圧力を受けている」と語った。この言葉を今日の日本の歴史教科書の歪曲事件との関連で考えてみるならば、韓日両教会は今日の韓日の関係の中で、教

会」となるため、神の召命に對する私たちの応答をもう一度反省し、形成するよう聖霊と今日の歴史教科書問題が圧力を加えているといえる。

私たちは日本の歴史教科書の歪曲問題をただ歴史教科書という問題の次元を超える韓日両国のキリスト教会の宣教師の課題に新しい挑戦として受けとめなければならぬ。歴史教科書の歪曲問題は、韓国人がもつ傷口を広げることによって、一九七三年以降の韓日両教会協議会が絶えまなく努力してきた出会いと対話による和解の福音の実現に強力な反動的作用をしたといわざるを得ない。

私たちは過去の傷口にふれたくはない。しかし、私たちの課題を現実的に考え、実現していくために、いくつかの私たちの傷をさらけだしたい。

(1)日本は、一八七六年江華島条約をはじめ、一九〇五年乙巳条約、一九〇七年の韓日新約、一九〇八年の東洋拓殖株式会社設立、一九二〇年代の米穀増産計画という名のもとで、米穀搾取、強制徴用、徴用、挺身隊等の「力の論理」による多様な徹底的な搾取行為。

(2)朝鮮総督府の神社参拝の強要に同調して、日本基督教団の初代総代理富田満が、一九三八年平壤に於て神社参拝を強要したこと。神社参拝の強要は、日本の植民地史観による日鮮同祖論の産物で、民族抹殺政策の一つであった。

(3)富田満は、大東亜共栄圏のキリスト教に、いわゆる「使徒的書信」を送ったことがある。

(4)一九四五年、日本は朝鮮のキリスト教を、日本基督教朝鮮教団」という名で、日本キリスト教に統合させ、朝鮮のキリスト教を完全に無くしようとしました。

日本の韓国植民地政策によって数えきれない程の多くの韓国人の生命が奪われたが、日本は世界の中で経済大国になった今日において、再び「力の論理」で韓日両国のみならず、アジアの平和を脅かしている。

韓日関係の問題を日本の教会が、教会の課題として受けとめるためには、まず日本の教会は韓国の教会をよく知らなければならぬ。韓国の教会の実体は、政治的キリスト教であり、民衆のキリスト教である。敬虔主義的で、福音主義的な米穀型のキリスト教が、初期アメリカ宣教師によって韓国に伝えられ、それが韓国に根をおろしたというが、ところが彼らがやって来る以前に、韓国にはキリスト教者がいた。彼らは苦難と困難の波の

高い歴史の現場で彼らの信仰の根をおろしていた。アメリカ教会による韓国宣教師は、すでに芽を出している韓国のキリスト教者を出して、霊的エネルギーを与えたと考えられる。韓国人が、最初にプロテスタントの洗礼を受けた信者となったのは一八七六年であった。この年から一八九六年までの二十年は、福音が韓国の地に種がまかれ、芽を出しはじめる期間であった。しかしこの期間には、近代朝鮮において一番困難で激動の時であった。この歴史の現場が韓国のキリスト教の胎動であったし、ここで韓国のキリスト教は胎児の形成期をおくり出生した。

この時の韓国の民族史的課題は、内には腐敗、不正、無能の社会を改革する開化、反封建主義運動であり、対外的には、外勢の不法的侵略に對抗する反植民地独立運動であった。この生地の場において韓国のキリスト教は、まさにこの民族史的課題を教会の課題として受けとめたのである。初期の韓国キリスト教者の社会身分的、階層的な分析によれば、彼らは社会改革の意思をもった革新的開化派(中流以上)の層と社会から生存権まで脅かされてきた農民等の下層階級に属していた。しかしこのように身分と階層が異なっても彼らは民族史的課題と教会の課題に一致して一致していた。

一九世紀の世界宣教師の歴史において一般的にあらわれた現実とは違つて、韓国においてはキリスト教を伝えて来た国と韓国を植民地として支配した国が同一でなかったため、韓国のキリスト教者たちの信仰の生に、反侵略的要素が深く根をおろすことができた。だから初期韓国人たちの入信の動機の中に、新しい知識への渴望、官吏たちの探学をさせることともに独立運動が強い動機となつていった。教会は独立運動の拠点であつた。そして旧約聖書の中でエジプト脱出記が多く読まれていた。

このような事実から、私たちはキリスト教が韓国においては苦難の現場に種がまかれ、芽が出たということがわかる。キリスト教は、韓国において李朝末期新しい天と新しい地に希望を置いた力強い民族運動の流れに受容された。この運動との出会いと受容されることにおいて韓

国のキリスト教は自己形成がはじまった。キリスト教の韓国の伝来において聖書がハンゲルで翻訳されることはじつと翻訳されることからはじまつたことか、または宣教師政策において労働者、農民、女性たち優先的に宣教師、教育と医療事業による宣教師活動したこと等韓国キリスト教が、韓国の歴史の中で形成されてきたことを示す重要な内容であるといえる。韓国人の信仰には「苦難」と「希望」が深く根をおろしている。韓国人ははじめから苦難の意味を体で体験したし、そこから終末論的希望をもつて生きること学んでいた。

特に一九六〇年代以降、韓国教会は、独裁政治のもとでの近代化・産業化の過程でもあった非人間化と闘い、人権の正義と自由のために闘った。一九六五年、韓国のキリスト教の指導者二四〇名は、韓日国交正常化に對し救国委員会を組織して反対をした。なぜならそれは韓日国交の真の正常化ではなく政権者たちのもう一つの政治のゲームであつたからである。この時発表された声明書には、私たちキリスト教者は、あらゆる形態の独裁と不正、不正腐敗に抵抗する。私たちは経済、文化、道徳、政治等のあらゆる部分に不純低劣な外勢への奴隷部分に追従を排撃する。という言葉がある。このことは一八九八年独立協会の中心となつて、官民万民決議案で、外勢の軍事、文化、経済侵略に反対したことと同じといえる。この時から韓国のキリスト教は、社会参与の神学から正義に對する抵抗運動を続けて来た。

(教会と世界十二月号から転載)

1982年度聖誕祝賀会

각처에서 성대히 거행

関東連合礼拝

関東地方教会では、在日本韓国入聖誕祝賀会を連合礼拝として十二月十六日(木)午後七時東京韓国YMCAホールで挙行された。関東地域に在る二十六教会より、聖誕祝賀会推進委員会を組織(위원장 吳允元長老)하여、毎年交替되는이聖誕祝賀会에 많은信徒들이参加했다。

第一部奉喜音楽礼拝は、曹炳澈牧師(江東教会)の司会と吳允元長老(東京教会)の説教、連合聖歌隊指揮 吳京世長老(東京教会)祈禱 李仁夏牧師(川崎教会)聖書朗読 李清吉牧師(東京福音教会) 등이 에배수서를 담당했다。

第二部祝賀会は、聖誕祝賀会推進委員会가 마련한 음식을 나누며 서로 인사를 나누며 파티를 즐겼다。関東地方教会

関西青年会

去る十二月十六日(日)西成教会において、関西地方連合青年会主催の音楽礼拝が持たれた。

青年部長 朴憲都牧師の説教(ルカ二・八・十四、受肉の秘義)に、参加者は深い感銘を受けた。当日、聖歌隊に参加した教会は、武庫川・京都・大阪西成の四教会で二十五名であった。今度のクリスマス音楽礼拝には、個教会の青年たちが協力し合い、御子の誕生の喜びを讃美

関東青年会

関東連(会長 金健)主催のクリスマス祝賀礼拝が、十二月十二日(日)午後五時、横浜教会でもたれた。

クリスマス祝賀礼拝は、金健会長の司会のもと、崔清洛君の証しがあつた。崔清洛君は、高校の時の挫折をのりこえて力強く生き、キリストに出会つて、喜びと希望の人生を歩むことができたことを証し、参加者に深い感銘を与えた。

青年部長 姜榮一牧師の説教



大阪教会でもった송아지크리스마스会

があつた。姜榮一牧師は、東方の博士や羊飼たちのように時のしるしを見きわめ、在日韓国人に福音を伝える青年になるよう奨励した。

第二部は、金致鎭(調布教会)の司会で、教会単位で出し物を披露し楽しい祝会をもった。

總會事務所

在日韓国基督教教会館

在日韓國人問題研究所

婦人會全國連合會

青年會全國協議會

在日本韓國YMCA

東京韓國YMCA

関西韓國YMCA

神戶東部教會

神戶教會

明石教會

水島教會

岡山教會

新居浜傳道所

廣島教會

三次教會

宇部教會

下関教會

小倉教會

折尾教會

福岡教會

熊本教會

佐世保傳道所

沖繩教會

長崎教會

熊本教會

大分教會

宮崎教會

鹿児島教會

那覇教會

謹賀新年